表したいものへの思いをもち，自分らしい表現で伝えようとする生徒の育成

－　中学１年「自己ＰＲカードをつくろう」の実践から　－

１　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

中学生になるとこれまで図画工作で学んだ内容を生かした作品制作に加え，新たな技法を習得したり，様々な道具や用具，素材を扱いながら作品を制作したりすることになる。中学生になって本格的に学習していく内容の一つにデザインが挙げられる。これまでは水彩絵の具による着色がほとんどであり，ポスターカラーやアクリルといった専門的な絵の具は初めて扱う生徒がほとんどである。絵の具の性質はもちろんだが，使用方法にも違いがあり，それによって戸惑ったり苦手意識を抱いたりする生徒もいるのが現状である。特に着色をする際，デザインではムラがなく均一に着色することが求められるが，図画工作で学習してきた「水を多量に混ぜて着色する」ことに慣れている生徒には，これが意外と困難だったりする。また，道具や用具を使用して，様々な表現を学習していくが，基礎的な技術を習得することにより，今後の作品制作に十分生かしていけると考える。

そこで，デザインによる作品制作を通して基礎基本をしっかり身につけ，制作する楽しさや喜びを抱かせ，完成した作品のよさや美しさ，素晴らしさなどを感じさせたい。

(2) 本題材の目標や内容と図画工作・美術科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

美術科では，美術における思考力・判断力・表現力といった力は，創造的な活動を通して創意工夫と試行錯誤を繰り返す一連の過程の中で育成されると考えている。本題材では，デザインの学習を通して新たに学習するレタリングや色に関するきまり，着色方法，道具や用具の扱い方などを習得するとともに，それぞれポイントとなるところでグループや学級全体での学び合いを取り入れ，かかわり合いながら，お互いに高め合って作品制作を行ったり，鑑賞したりすることをねらいとしている。

本題材では様々な要素を含めた学習を展開していき，最終的に全ての学習内容を詰め込んだ作品が完成するように組み立てている。その中で，色に関する学習をする際に，グループでかかわり合いながら色相環を作成する場面があるが，ここでは思考力を働かせたり，判断力を生かしたりしながら対象となるものから感じ取って作成することができると考えている。また，グループや学級全体での鑑賞の場面がいくつかあるが，直感的に感じたり，お互いに話し合う中で，思考力や判断力が育成され，教科の特性として最も強く主張される表現力にもつながっていくものと考える。具体的には，形や色彩，表現方法などによる造形言語で仲間に伝えることができたり，仲間の表現からよさや素晴らしさを言葉や文章で伝えることができることを目指している。表したいイメージを基に，形や色彩，表現方法などの性質やそれがもたらす効果について考え，構成や配色などで創意工夫・試行錯誤を繰り返す中で判断し，自分の思いを表現（造形言語）に託して仲間に伝える取り組みを通して，思考力・判断力・表現力を育成できるのではないかと考える。

(3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

思考力・判断力・表現力の育成に向けて，課題解決の過程の中で評価・改善の場を設定し，ふりかえりの活動を通じて自分がどのような工夫をし，そこに何を反映させたかを言語化させていく。言語化することで自分の考えなどを確認し整理することで意図が明確になっていくと考える。

かかわり合いの活動の中で，思考力・判断力・表現力を育成するために次のような取り組みを行う。

①有彩色を色みの似ている順番に並べたときにできる色相環をカラーカードを用いてグループごとに話し合い，作成する。短時間で作成できるものであるが，本題材では最初のかかわり合いとなり，グループで思考力や判断力を身につけるため，教師側から意図的に設ける話し合い活動である。

②参考作品を個人で鑑賞し，その中で気づいたことや感じ取ったことをグループで話し合う。その結果をホワイトボードにまとめて学級全体で発表する。作品に見られる形や色の特徴，表現方法を読み取り，それぞれ意見を交換する。様々な意見の中から共通の意見や重要な意見などを判断しながらまと

めることで，課題解決に向けての学びを共有させたいと考えた。

③完成作品の鑑賞では，これまでの活動を振り返り，どのようなことを考え，判断し，表現したかを伝え合うために，グループでの鑑賞と学級全体での鑑賞を行なう。まず，グループでの鑑賞はグループ全員の作品について制作者がプレゼンテーションを行い，その作品に対してよかった点や工夫している点など，よいところを見つけてコメントを書き，交換する。学級全体での鑑賞は，グループの中で紹介したいと思う作品を選び，制作者のプレゼンテーションに続き，同グループからコメンテーターを選出し，その作品についてのコメントを発表する。自分がその作品から感じたことや考えたこと，友だちの表現から読み解き判断したこと（学ぶべきよい点や改善すべき点），それをどのような記述で伝えればよいかについて考えさせて取り組ませる。

一連のかかわり合いの活動を通して，思考力・判断力・表現力を育成していきたい。

2　展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は，学級全体の学び合いの場面）
1	【レタリング①】 ・レタリングについて理解する ・レタリングを実際にやってみる	1	・資料をもとに，明朝体とゴシック体の特徴について理解する ・「永」の文字を明朝体とゴシック体それぞれレタリングする
2	【レタリング②】 ・自分の名前をレタリングする	2	・自分の名前に使われている漢字やひらがなを資料から探し，そのうちの一文字を明朝体またはゴシック体でレタリングする
3	【色の整理】 ・色について理解する ・グループで話し合う	1	・有彩色と無彩色の違いや色料の三原色，色光の三原色，またそれらを用いた混色について学習する ・色相環についてグループで話し合い，カラーカードを並び替えて色の違いについて理解する
4	【色の足し算】 ・初めて使うアクリルガッシュで着色の練習をする	1	・色料の三原色を混色した「色の足し算」をスケッチブックに書いた一辺２cmの枠に着色する 例）□＋□＝□ ※紫は実際に赤と青を混ぜてできたものを着色する ・水彩絵の具との違いを理解し，混ぜる水の量が多いとにじんだりムラになったりすること，水の量が少ないとかすれることなどを意識して着色する
5	【技法の習得】 ・グラデーション ・スパッタリング ・吹き流し	1	・基本的な技法であるグラデーション，スパッタリング，吹き流しを習得し，今後の作品制作に活用する ・スパッタリングは金網とブラシ（刷毛），吹き流しにはストローなど，必要な道具を正しく使えるように練習する
6	【グループ鑑賞】 ・昨年度の作品を鑑賞し，グループで話し合う ・自己ＰＲカードの形を決める	1	・昨年度に制作された「自己ＰＲカード」を個人で鑑賞し，作品の特徴や気づいたことをメモする ・作品についてグループで話し合い，作品の特徴を理解する ◇それぞれのグループでまとめた意見を学級全体の場で発表し合い，自己ＰＲカード制作の条件や多様な表現を理解できる ◇学級全体の共通した自己ＰＲカードの形を話し合いで決定する

7	【アイデアスケッチ】 ・自己ＰＲカードのアイデアスケッチ	1	・６で決定した形に①自分の名前一文字，②自分の好きなもの・こと，③５で習得した技法を取り入れて作品を制作するためのアイデアスケッチをする
8	【トレース・下描き】 ・自分の名前の一文字をトレースする ・ケント紙に下描きする	1	・２でレタリングした文字をトレーシングペーパーを利用してケント紙にトレースする ・アイデアスケッチを基に，ケント紙に下描きする
9	【着色】 ・アクリルガッシュで着色する	4	・アクリルガッシュの特徴を生かしながら着色する（４を参考にする） ・着色する順番を意識して着色する（背景から前景にかけて順番に着色） ・５で習得した技法をうまく生かして着色する
10	【完成作品の鑑賞】 ・グループ鑑賞 ・学級全体で鑑賞 ・ふりかえり	1	・グループ（５～６人）で鑑賞し合い，メッセージを交換する（発表者の作品のよいところを見つけてメッセージを書く） ◇他のグループにも紹介したい作品を各グループで選び，学級全体の場で発表する ・自己ＰＲカードの制作を振り返り，プリントにまとめる
11	【パネルに貼り付け・完成】	1	・Ｂ１サイズのパネル２枚に完成した自己ＰＲカードを貼り付ける ・学級のスローガンや装飾を施し，完成する

3　授業の実際

(1) レタリング①

文字はあらゆる場面で目にするが，それぞれ意図や目的に応じた文字体が使用されている。中学１年で初めてレタリングを学習する際，様々な文字体がある中，基本的な明朝体とゴシック体から学習するのが理解しやすいと考え，教科書や資料等（以下参考資料）にも記載されている「永」という文字をレタリングの基礎から学習することにした。まず参考資料を見て，それぞれの特徴や気づいたこと，どんな場面で活用されているかなどをメモしていく。学級全体のかかわり合いとして何人かに発表させ，みんなで共有していくこととする。

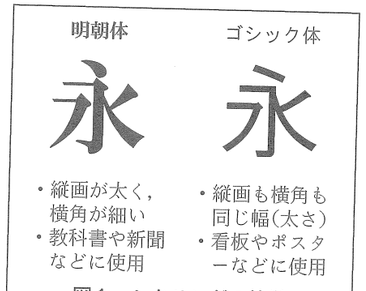

図１　レタリングの特徴

レタリングについて学習したのち，実際に明朝体，ゴシック体ともにプリントにレタリングする。見本となる文字（左側）を16分割し，それを参考にして右隣に書き写す。これはレタリングの基本的な作業であり，文字を書き写すことに専念させるために，同じ大きさに設定した。また，文字を分割することにより，それぞれのマス目にどのような形や線があるのかをしっかり見極めることにより，文字というより図としてとらえて書き写すことができる。

(2) レタリング②

前時の学習から，自分の名前に使われている漢字やひらがなを資料から探し，そのうちの一文字を選択する。この時，クラスメイトの中で同じ漢字やひらがなが使われている場合は，その文字を避けるか，話し合いによって決定する。そして選んだ一文字を明朝体またはゴシック体でスケッチブックにレタリングする。

資料に記載されている文字は２cm四方と十分な大きさではなく，実際にはこれを６～８cmに拡大してレタリングすることになる。ここで前時に学習した16分割が生かされることになる。この方法だと拡大や縮小も効率的に行えるからである。

(3) 色の整理

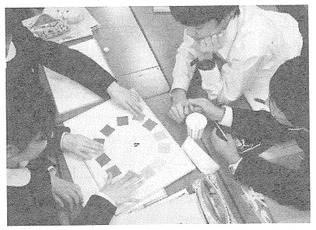

図２　グループで色相環をつくる

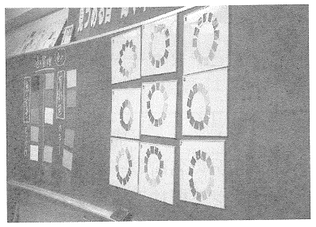

図３　各グループでつくった色相環

色には様々なきまりがあり，それによって分別することができる。ここではそのきまりに沿って整理し，色について学習していく。まずは無差別に選択したカラーカードを数枚提示し，それを２つのグループに分けるように生徒に指示する。ここで分けたグループが有彩色と無彩色となるようにカラーカードの選択を同数となるように工夫しておく。しかし，クラスによっては「明るい色」と「暗い色」や「派手な色」と「地味な色」といったように，こちらの意図と異なる発言もあり，どのように展開していけばよいか，課題となる部分でもある。

さらに，有彩色を色みの似ている順番に並べると，一つの環になる。これを色相環と呼ぶが，この色相環をグループごとに話し合い，作成しようと考えた。一辺４cmのカラーカードを12枚用意し，グループで隣同士の色がうまくつながるように話し合いながら並べ替え，ホワイトボードに貼り付けていく。そして学級全体で共有していく。

また，色料の三原色や色光の三原色，それらを用いた混色についても合わせて学習する。

(4) 色の足し算

ここでは色について学習したことを踏まえ，初めて扱うアクリルガッシュという絵の具をうまく扱えるように練習するための学習である。スケッチブックに書いた一辺２cmの枠に色料の三原色を混色したものを着色していく。数式になぞらえて「色の足し算」をつくりながら学習していくものである。

例）［赤］＋［青］＝［紫］

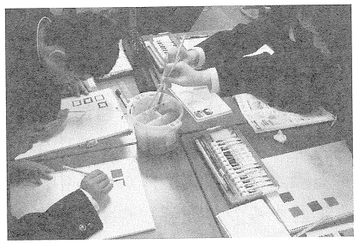

図４　着色している様子

例のように足し算の式に合わせて着色していくが，赤や青はチューブから直接出した色を，紫は実際に赤と青を混ぜてできたものを着色する。

とかく小学校では水彩絵の具が主流で，水をたくさん使用した着色方法が身についているので，ポスターカラーやアクリルガッシュといった，デザインで扱う絵の具によるベタ塗りがなかなか定着しない生徒も少なくない。したがって，アクリルガッシュは水彩絵の具と性質が違うことをきちんと理解し，混ぜる水の量が多いとにじんだりムラになったりすること，水の量が少ないとかすれることなどを意識して着色させる。

(5) 技法の習得

今後の作品制作に活用するために，基本的な技法であるグラデーション，スパッタリング，吹き流しを習得する学習である。

グラデーションでは白と他の色を使用し，混色の割合によって段階的に色を変化させていくが，ここで着目しなければならないのが，強い色と弱い色があるということである。例えば白と黒の絵の具を用いてグラデーションを行った場合，白が弱い色で，黒が強い色ということになる。この２色を混ぜていく場合，強い色（黒）に弱い色（白）を混ぜていくと，白はかなりの量を消費してしまうことになる。したがって，弱い色（白）に強い色（黒）を少量ずつ混ぜていくことを注意事項として挙げる。

スパッタリングは金網とブラシ（刷毛），吹き流しにはストローなど，必要な道具を正しく使えるように練習する。

(6) グループ鑑賞

デザインに対する意欲化を図ること，これからどのような作品を制作していくのか見通しをもつことを目的として，形や色，使われている技法，表現方法や内容などの視覚情報をたよりに，完成作品から読み取る活動を行なう。ここでは，昨年度制作した「自己ＰＲカード」が貼付してあるパネルを用意する。まずは個人で鑑賞し，作品の特徴や気づいたことなどをメモする。鑑賞するにあたり，あらかじめこれまでの学習を振り返りながら鑑賞していくことをヒントとして与える。個人での鑑賞が終了したら，次に９つのグループに分かれ，作品についてグループ全員で"話す・聞く・認める"などのかかわり合いを通し，作品から読み取れる視覚情報をたよりに，気付いたこと，考えたことなどを発言させ，ホワイトボードに意見をまとめる。生徒の意見として，これまで学習してきた内容に加え，色や形などの客観的に観て気づくことや，予想しながら解き当てる内容など，多岐にわたる。ここでは様々な意見がある中で３点に絞り，簡潔にまとめることをルールとする。

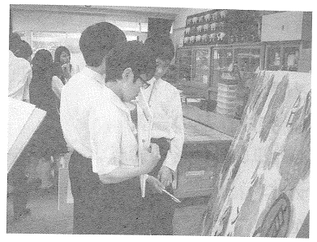

図５　作品を鑑賞している様子

ある学級では以下のような意見が出た。まとめてみると，①クラスごとにそれぞれの作品の形が統一されている②これまでに学習した技法（グラデーション，スパッタリング，吹き流し）のいずれかを使用している③自分の名前に使われている漢字やひらがな一文字をレタリング（明朝体またはゴシック体）している④自分の好きなもの・ことを取り入れている　という意見になった。

これらを基に，これから制作していく「自己ＰＲカード」の条件や内容について共通理解を図ることとする。

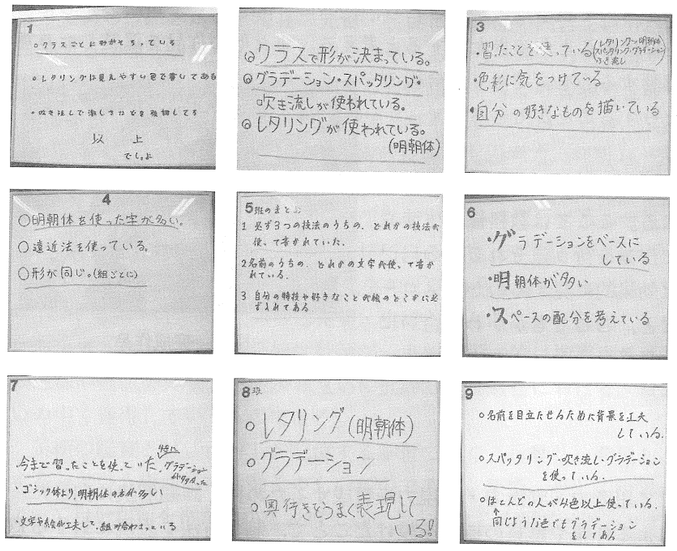

図６　各グループでまとめた意見

なお，「①クラスごとにそれぞれの作品の形が統一されている」をこの時点で確定しておくため，話し合いによって決める。

(7) アイデアスケッチ

前時で決定した形に①自分の名前一文字，②自分の好きなもの・こと，③５で習得した技法を取り入れて作品を制作するためのアイデアスケッチをする。これは下描きとは異なり，画面構成や配色，どの技法を取り入れるのかなど，いくつものアイデアを出していくことが目的である。これを踏まえ，最終的にどのような作品に仕上げるのか決定する。

(8) トレース・下描き

ここでは新たな技法としてトレース（転写）を行う。(2) **レタリング**②で自分の名前一文字をスケッチブックにレタリングしてある。トレーシングペーパーを使用してこれを写し取り，ケント紙へ転写する。この作業は今後も様々な場面で活用することができるため，きちんと使い方を習得させたい。

(9) 着色

生徒の中で美術に対する苦手意識を抱いている理由の一つに，「下描きはうまくいくけど，着色がうまくできない」ということがある。そこで風景画などでも基本として知られるように，背景から手前に向けて着色していく方法を学習させる。実際に教師側で作品を作成し，その工程をデジタルカメラで撮影しておく。生徒が着色する前に撮影した画像をプロジェクタを通してスクリーンに映しながら制作手順の説明をする。もちろんプリントにも印刷し，常に手元に置いた状態で参考にしながら作業することができるようにする。とかく生徒は手前のものから塗ってしまいがちである。背景を着色しようとした

時に手前のものに色が重なってしまったり，塗り残してしまったりして思うように仕上がらず，断念してしまうケースも少なくない。今回はそれを回避するために，常に「背景から手前に向けて着色しよう」と呼びかけたい。

⑽ 完成作品の鑑賞

作品の完成後，お互いの作品をグループごとに鑑賞し合う相互鑑賞を行う。作品の工夫した点や苦労した点などのアピールポイントを順番にプレゼンテーションし，鑑賞者の前で自分の意見をしっかり伝える活動にしていきたい。また，鑑賞者は発表者の作品のいいところや工夫しているところをできるだけ具体的に記述し，メッセージとして発表者に渡す。お互いに作品のよさや美しさを伝えあうことにより，今後の作品制作の意欲にもつながると考えた。

図７　グループでの鑑賞

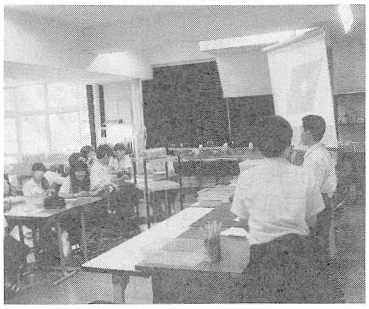

図８　学級全体で作の鑑賞

グループでの相互鑑賞後，クラス全体での鑑賞を行う。それぞれのグループで他のグループの人たちに紹介したい作品を１点選択し，その作品の制作者がアピールポイントを発表する。また，同じグループからコメンテーターとしてその作品についてよかった点や工夫した点をコメントする。この活動を通して，全体の場で自分の意見を発表する力を養うことができたり，他者の作品について自分の感じたことや考えたことを全体に伝える力を伸ばすことができたりすると考える。また他の作品を鑑賞したり意見を聞いたりすることによって，感動する心を育てたり，今後の自分の作品制作に対して参考にしたりすることができる。

⑾ パネルに貼り付け・完成

最後に完成した自己ＰＲカードをＢ１パネル２枚に貼り付け，学級のスローガンを入れて完成となる。ここでは教科係の生徒や美術部員，また有志の生徒の協力で作業を行う。それぞれの自己ＰＲカードをどのように配置すれば効果的に見えるのか，スローガンはどのようなものがよいのかなど，ここでもかかわり合いによって，思考・判断・表現の様子が見受けられ，よりよい学級づくりにもつながると考えている。

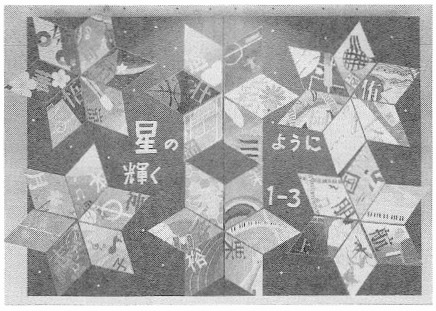

図９　完成作品

４　成果と課題

課題解決に向けた学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育成するために，課題解決に向けた一連の活動を通して，かかわり合いによる作業や鑑賞の機会を設けたことで，制作方法や表現に対する意欲を高めていくことできたのではないかと思う。本制作の前にこれまでの学習方法を確認したことで，作品のイメージをつかみやすくなった。試作を通して基礎・基本的な知識・技能の習得を図ったことで，発想から完成に至る過程の中で，創意工夫と試行錯誤を繰り返しながら表現し，作品のイメージを深めることができた。また，かかわり合いの中で仲間から認められることで，自分の表現に自信を持って取り組むことができ，自分の表現したいイメージや意図がより明確になっていったように思う。また，仲間の作品から積極的に表現のよさや工夫を感じ取ろうとする姿も見られた。また，思考・判断を促しやすいワークシートの開発，工夫も必要であると感じる。（文責　錦織　秀行）

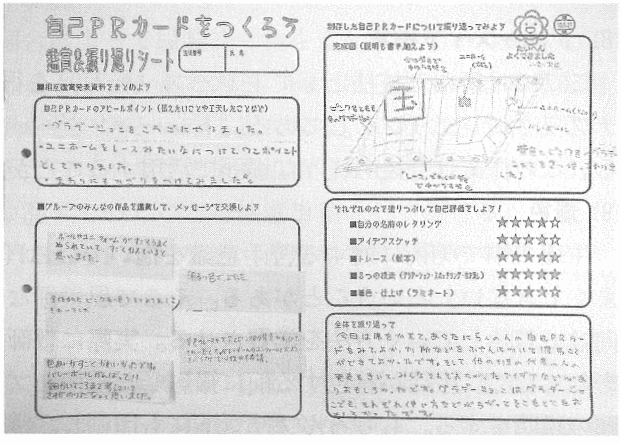

図10　鑑賞・ふりかえりシート